

徳泉寺報

No.003

発行
平成30年1月

発行元 徳泉寺

仙台市宮城野区
榴岡 3-10-3

(022) 297-4248

新しい年を迎えました

平成三十年、新しい年を迎えました。旧年中は多くのお力添えをいただきありがとうございました。自然環境、社会情勢など常に不安定なこの世において、変わらぬ仏の教えをもとに本年もみなさまの支えとなる徳泉寺でありたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

一月一日 修正会(しゅししょうえ) 勤修

人の数だけ、家庭の数だけ、お正月の過ごし方もさまざまあることと思います。それぞれのお宅によっておせちやお雑煮も違えば、親族との交流や初売りへの期待など、日本において年末年始ほど多種多様な年中行事もないのではないのでしょうか。

徳泉寺では十七年ほど前から元日の法要として修正会を行っています。仙台ではもともとお正月にお墓参りを避ける風習があり、お寺へは十五日の小正月が終わってからお参りされる方が多くありました。これは、神仏やご先祖を敬い畏れる思いの一つの表れであったことでしょうか。

しかし、一年の計は元日にあり、という言葉にあるように、新しい年の始めにこそ御仏に手を合わせ、自分自身を見つめていただけたら、という思いでこの修正会をはじめて十七年。今年は七十人以上の御参詣があり、みなさまのお正月の中に修正会が位置づけられ、

定着しつつあることを感じ、嬉しくまた有り難く、新しい年にこころ改まる思いがいたしました。

勤行(ごんぎょう)

ご門徒が集まるこうした法要で、一番多くお勤めされるのは親鸞聖人によって書かれた『正信偈(しょうしんげ)』という偈文で、赤い勤行本にそってお勤めされます。「老若男女多くの声でのお勤めは新年にふさわしい新鮮な雰囲気を感じられました。」と、感想をいただきました。

法話

住職、前任職からの法話では徳泉寺からの年賀状の文言『いのち満開』にまつわる話。「不安」が私を確かなものに導いているのだとすると、「不安」がなくなったら「わたし」ではなくなってしまう。「不安」は「わたし」そのものなのだというおばあさんの言葉を紹介しながら、前任職自身が実感した「あたりまえ」の素晴らしさについて。「あたりまえ」は「あたりまえ」でなくなつて初めてわかるということ。そんな「あたりまえ」を大切に毎日を生きましようと言りました。

茶話会

おとそや甘酒のふるまいもあり、おの新年のご挨拶。一年に一度、ここでお互いの近況を報告し合う方もいて、にぎやかに年の始めのひとときを過ごしました。



茶話会でみなさんと



勤行の様子



ご本尊 お正月用お荘厳